



戦後80年記念

中学生広島派遣事業

福島市中学生平和大使

成果報告会



福島市
中学生平和大使

戦後 80 年 広島派遣事業

いつまでも忘れてはいけない
～To prevent this from happening again～



《本川小学校》



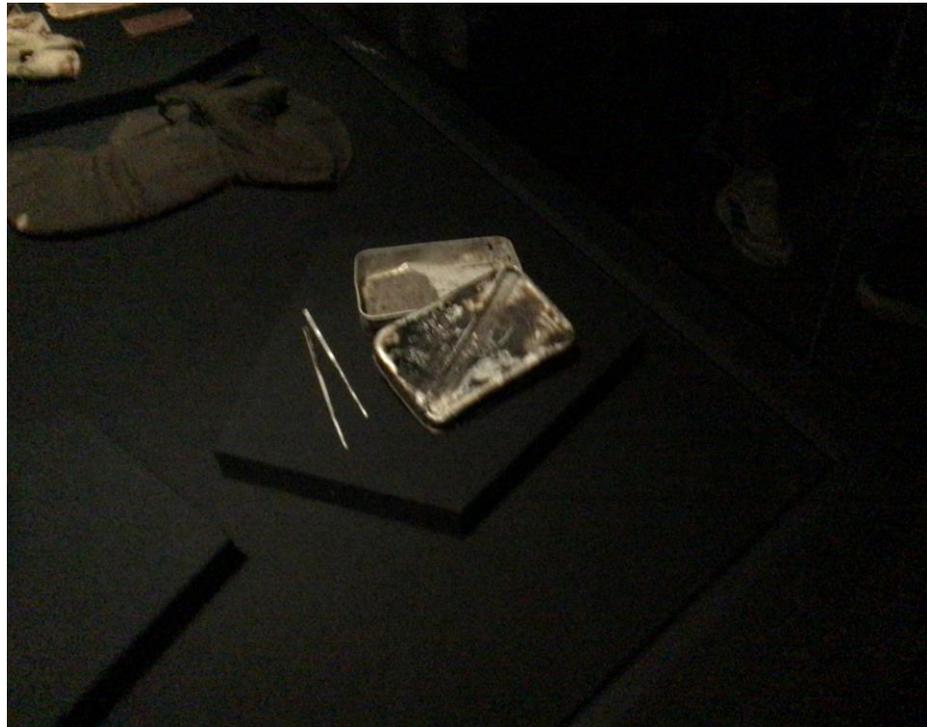
○本川小学校の紹介○

- ・ 原爆が投下された場所から一番近かった小学校
- ・ 熱線によって変形したガラスや銃などが展示されていた
- ・ 約400人いた児童のうち生き残ったのはたったの一人
- ・ たった一人生き残った児童の『居森清子』さんは、原爆の熱により丸こげになった友人を目の当たりにしてしまった。それから、人生の最後まで原爆の恐ろしさや戦争の恐ろしさを伝え続けた

○感想○

熱線によって溶けた窓ガラスや銃により原爆の恐ろしさを実感できました。この忘れてはいけない歴史をこれからも伝えていくのが私たちの使命だと実感できました。

平和記念資料館



平和記念資料館



平和記念式典

<平和記念式典の様子>



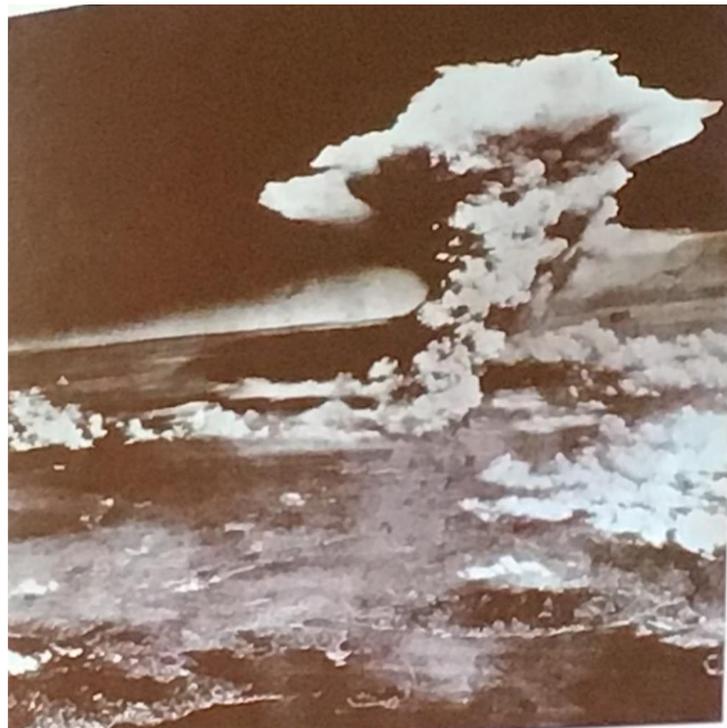
・ 平和記念式典の内容

平和記念式典では参加者全員で広島平和の歌を歌った

そして黙禱をした



梶谷文昭さんの被爆体験講話



それは光った。
ぴかーーと光った。

ぶわーーという風。

各都市の平和への取り組み発表①

～いじめゼロを目指すために～

○いじめ根絶スローガンを作る

- ・一人一人のいじめに対する意識が高まる
- ・全校生がスローガンを知ることによって団結力もうまれる

例) 認めよう、一人一人の違い

尊重しよう、お互いのこと など

○各校の代表者が集まり、いじめの現状などを発信しあう

- ・新たな考え、疑問がうまれる
- ・自分の学校ではでなかった意見を聞ける



各都市の平和への取り組み発表②

～人権を守るために～

○私服で登校するweekを設ける

- ・個性のあり方を学ぶことができる
- ・互いを尊重し合い、自分らしさが生まれる

○制服の見直し

- ・平等な社会を作るために話し合ってみる
- ・互いを尊重し合い、自分らしさが生まれる



先生の言葉

～先生のあの言葉で私の考え方が変わった～

「一人一人にエピソードがある」

第1回全国平和学習の集い（広島市役所会場）

＜話し合いの様子＞



＜被爆者の方の話＞



＜参加団体＞ 福島県福島市・栃木県鹿沼市・神奈川県茅ヶ崎市・新潟県南魚沼市
静岡県島田市・島根県邑南町・広島県ユースピースボランティア

感想



広島で感じた思い

石川県輪島市
民医連 輪島診療所
健康友の会 能登ブロック

平和な世界を
元気に
笑顔で





↑平和の鐘



↑韓国人原爆慰靈碑



The Breakdown of Family N (N家の崩壊)

Nさんは、働き者の漁師だった。
あの日……Nさんは、建物疎開作業に動員されて被爆。

全身に火傷を負った。
2年後、Nさんは徐々に回復し、時には漁に出られるようになった。
しかし、それも長くは続かなかった。

1951年(昭和26年)3月、
一家の生計を支えるため働き続けた妻が亡くなった。
子どもを殺して死のう……と決心したNさんは、
残ったお金で米と魚を買って子どもに食べさせ、
夜のふけるのを待って子どもの首に手をかけたが、
どうしても力が入らずとうとう朝を迎えた。
生きていくしかなかった。

N was once a hardworking fisherman.
That day... N was exposed to the bomb at his building demolition.
He suffered severe burns over his body.
After two years, N recovered enough to go fishing.
His wife, who had desperately
1951, N decided to kill
he had on si
fall

← 原爆の被害を受けたNさん

→ ようやく入院できたNさん

→ 聞くだけで心が痛む

治癒の望み

1960年(昭和35年)

1960年(昭和35年)、Nさんは原爆病院に入院できることになった。
ボロボロの布団を持って入院し、不当な扱いを受けた辛い思いを再び父にさせまいと、
長女は借金して新しい布団を作り、祖母は息子のため新しい寝間着を買った。

Hope for recovery

1960

N was admitted to the A-bomb Hospital in 1960. He had been treated badly before when hospitalized with his ragged futon (Japanese bedding). Not wanting him to repeat that bitter experience, his daughter borrowed money and made a new futon. His mother bought him new pajama.

壊れていく家族

父親が苦しみだしても、誰にもどうすることもできなかった。
1952年(昭和27年)以来、9度病院を転々とし、
2度の大手術をしたが、病状は好転せず、
Nさんは市役所からその病状さえ羅われ、ついには精神異常者にされた。

Collapsing family

N was suffering great pain, but nothing the family could do relieved it. He sought medical care at nine different hospitals after 1952 and underwent two major operations, but his condition never improved. Hiroshima City officials thought he was faking his illness and classified him a mental patient.

一家の生計を支えるため
一身に家族を



A-bomb Microcephaly - The Story of a Couple and Their Child -

母親の胎内で被爆した子どもの中には、頭蓋が著しく小さい原爆小頭症が発生し、重度の知的障害を伴う場合もありました。

Some children exposed to the A-bomb radiation in mother's wombs were born with abnormally small heads, or microcephaly, which is often accompanied by severe mental disabilities.



原爆が下されたのは、1945年8月9日午後1時45分頃です。当時、長崎市の小島町に暮らしていた長崎県立小島小学校の児童も、この日、原爆の被害に遭いました。その時、小島小学校の児童は、原爆の被害に遭った後、長崎市の小島小学校に避難しました。しかし、原爆の被害に遭った児童の中には、頭蓋が著しく小さい原爆小頭症が発生し、重度の知的障害を伴う場合もありました。

Three children gave birth to her son Yoshitaka in February 1946. When Yoshitaka started elementary school, his parents learned that he was severely disabled. Yoshitaka was unable to keep up with his classmates and eventually had to be sent to a special school. Yoshitaka's condition was not understood at the time, but it was later discovered that he had A-bomb microcephaly. Yoshitaka's condition was not understood at the time, but it was later discovered that he had A-bomb microcephaly.

原爆小頭症

親子の歩み

投下後数年経っても影響↑



青中
1947年
吉川
藤心
青中
その
Kek
April
K
the
hang

THE 80TH ANNIVERSARY OF THE ATOMIC BOMBING OF HIROSHIMA PEACE MEMORIAL MUSEUM



黒い雨

Black Rain

炭から落ちる人々の上に、黒い降り火のある雨が降りました。傷ついた人々は雨に打たれながら、乾いたのどを潤すため腐蝕を飲み込みました。この雨は放射線を帯びていました。

Black and sticky rain fell over people fleeing fires. The soot and heavy people drank the rain pouring onto them. The rain was radioactive.

↑黒い雨は長く被爆者を痛めた

まるこげになった三輪車、制服



三人の中学生の遺品

爆心地から900m 小網町

市立中学校の1、2年生は、建物疎開作業中
被爆し、多くの犠牲者を出しました。
この衣服は、亡くなった3人の生徒が身につけて
いたものです。
それぞれの衣服には、子を失った親の深い
悲しみがこもっています。

Belongings of three junior high students

900 m from the hypocenter Kosmi-cho
The first- and second-year students in Hiroshima
Municipal Junior High School were engaged in
building demolition. Most of them were killed in
the bombing. Each article conveys the deep sorrow of parents
who lost their beloved sons.



↑平和記念式典の様子（広島市長のスピーチ）

第一回全国子ども平和 サミット ~Peace For Smile, Smile For Peace~

We're Peace-Loving Citizens!

わたしたちは平和を愛する市民です！



第一回全国平和学習の集い

「自分の地元では戦時中どんな被害があったのか」
「平和な世界を実現するためにできることは何か」

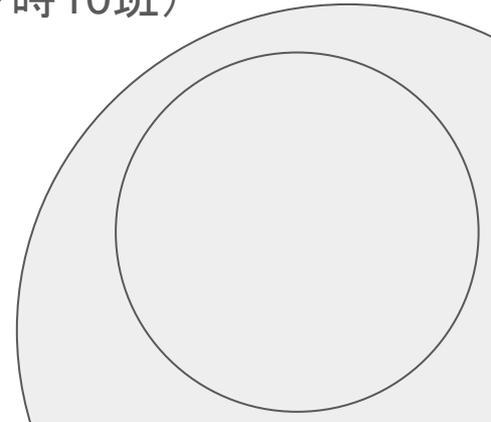
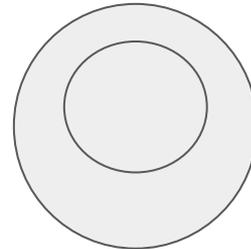
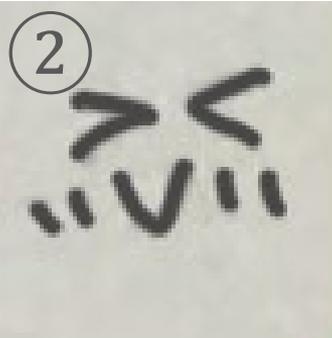
南魚沼市、鹿沼市、福島市、広島市の生徒計6名
(グループディスカッション時10班)

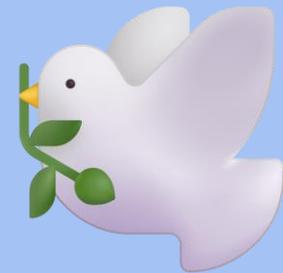
①



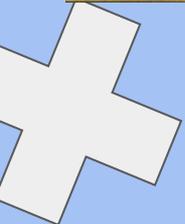
① 「平和を愛する市民の証」

② 「ご飯をお腹いっぱい食べられるのは平和だね。」の顔





「全員が過去を知り、交流しあって考えを共有する」
ことが世界を平和にする



私たちの思い



ご清聴ありがとうございました



戦後80年記念 中学生広島派遣事業

～福島市中学生平和大使として～

被爆80周年 ——— THE 80TH ANNIVERSARY OF THE ATOMIC BOMBING ———
令和7年8月6日 広島市原爆死没者慰霊式・平和祈念式
AUG. 6, 2025 HIROSHIMA PEACE MEMORIAL CEREMONY

平和記念公園



広島平和都市記念碑

・原爆によって壊滅した広島市を、平和都市として再建することを祈願して設立したもの

平和の灯



原爆ドーム



平和記念資料館



- ・ 被爆の惨状をはじめ、原爆が投下されるに至った経過、および核兵器開発の歴史、平和希求などストーリー性のある展示を行っている

平和記念資料館



○ 被爆したお弁当箱

当時13歳だった子供が持っていた弁当食べるのを楽しみにしていたが、結局食べる前に原爆に巻き込まれ帰らぬ人になってしまった。



○ 死の斑点が出た兵士

歯茎の出血が止まらず、体中に無数の斑点が出て、3日後に亡くなってしまった。

平和文化活動の集い



平和学習の集い



全国から集まった小中高校生が6人ごとに分かれ、以下のことについてグループディスカッションを行った。

- ① 今日本は平和だと思うか、平和な状態とはどのような状態だと思うか
- ② 平和になるために何をすればいいと思うか



私たちができること



「戦争や平和について身近な人と共有する」

未来へ繋いで行くのは
私達の番です

戦争・平和への
考えや想いは変わりましたか？



ご清聴ありがとうございました